

幼児はテレビをどう見ているか

～2012年6月「幼児視聴率調査」から～

世論調査部 関根智江

2012年6月に実施した「幼児視聴率調査」の結果から、幼児のテレビ視聴の現状について報告する。調査は、東京30キロ圏に住む2～6歳の幼児1,000人を調査相手として、6月11日(月)～6月17日(日)の1週間実施した。

幼児が1日にテレビを見る時間は1時間53分(週平均)で、前年(2時間7分)よりも減少した。視聴の減少は夕方から夜間にかけての時間帯で、特に民放の下降が大きい。この背景として本調査からは、ビデオの再生時間がやや増加したこと、短時間視聴の母親が増加したことが考えられる。

調査をした1週間に、少しでもその局を見た割合(週間接触者率)をみると、Eテレは72.6%と最も高く、次いでフジテレビ、NTV、テレビ朝日となっている。前年と比べると、総合テレビは増加し、Eテレ、TBS、フジテレビ、テレビ朝日、テレビ東京は減少した。

幼児がテレビをよく見る時間帯は朝と夕方から夜にかけてで、番組では「サザエさん」「ちびまる子ちゃん」など民放のアニメ番組や、「おかあさんといっしょ」「みつけた!」などEテレの幼児向け番組がよく見られた。

はじめに

2012(平成24)年6月「全国個人視聴率調査」(対象は全国7歳以上)¹⁾と同時期に実施した「幼児視聴率調査」の結果を報告する。

調査は6月11日(月)～6月17日(日)の1週間、東京30キロ圏に住む2～6歳(就学前)を対象に実施した。住民基本台帳から層化無作為2段抽出した幼児1,000人(10人×100地点)に郵送法(15分単位日記式、保護者による代理記入)で行い、有効数は594人(有効率59.4%)であった。

有効サンプルの構成は表1のとおりである。なお、回答者(幼児の世話を最もよくしている保護者に依頼)の97%は母親であるため、以下の本文では保護者のことを母親と表記する。

1. テレビ視聴状況

(1) テレビ視聴時間が2時間を切り減少

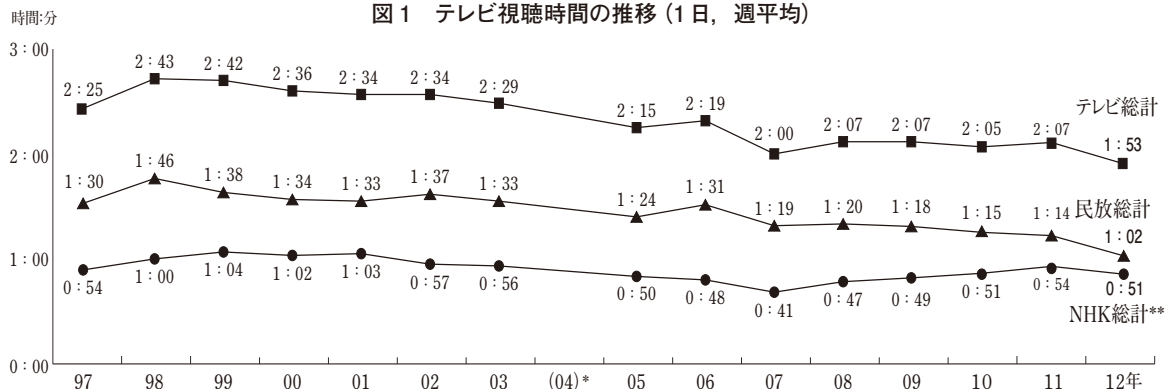
今回、2～6歳の幼児のテレビ総計の視聴時間は、週平均1日あたり1時間53分で、前年(2時間7分)よりも減少した(図1)。これまでの長期的な推移をみると、幼児のテレビ視聴時間は1998年(2時間43分)から漸減し、2007年には2時間になった。2008年以後は、そのまま2時間程度の水準で推移していたが、今年初めて2時間を切り、これまでで最も短い。

NHK・民放別には、NHK総計51分(前年54分)に対し、民放総計は1時間2分(前年1時間14分)であり、前年と比べると主に民放総計が減少傾向にある。NHK総計の内訳をみると、総合7分、Eテレ43分、衛星計1分で

表1 サンプル構成

全体	男	女	2歳	3歳	4歳	5・6歳	保育園児	幼稚園児	未就園児 ²⁾	不明
594人	289	305	120	148	141	185	179	296	116	3
100.0%	48.7	51.3	20.2	24.9	23.7	31.1	30.1	49.8	19.5	0.5

図1 テレビ視聴時間の推移(1日、週平均)



*2004年は「幼児視聴率調査」を実施していない
 **2008～2010年 NHK総計中、BSはBS1・BS2・BSハイビジョンの3波
 2011年～はBS1・BSプレミアムの2波

表2 NHK・民放別平均視聴時間(週平均)

		全体	男	女	2歳	3歳	4歳	5・6歳
NHK 総計	10年	0:51	0:50	0:51	0:59	0:59	0:47	0:42
	11年	0:54	0:51	0:55	0:58	0:58	0:59	0:39
	12年	0:51	0:49	0:54	1:00	0:54	0:49	0:44
民放総計	10年	1:15	1:19	1:11	1:07	1:02	1:13	1:31
	11年	1:14	1:13	1:15	1:10	1:14	1:10	1:20
	12年	1:02	0:59	1:04	0:58	0:54	0:57	1:14
テレビ総計	10年	2:05	2:09	2:02	2:07	2:01	1:59	2:13
	11年	2:07	2:04	2:09	2:08	2:12	2:10	1:59
	12年	1:53	1:48	1:56	1:57	1:47	1:46	1:59

表3 曜日別男女年齢別平均視聴時間(テレビ総計)

		全体	男	女	2歳	3歳	4歳	5・6歳
	12年	11年	00年					
平日	1:54	2:07	2:07	1:48	1:59	2:03	1:49	1:51
土曜	1:46	1:55	2:00	1:46	1:46	1:45	1:39	1:32
日曜	1:54	2:23	2:05	1:53	1:54	1:44	1:46	1:38

ある。幼児の場合、NHK視聴の大半がEテレに充てられている。

性別・年齢別にテレビ総計の視聴時間をみてる(表2)。前年と比べると統計的な差はみられないが、3歳と4歳で視聴時間の減少幅がやや大きい。NHK・民放別にみると、NHK総計の視聴時間は2歳が1時間、3歳が54分、

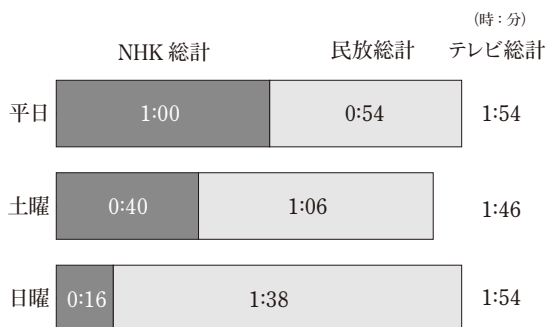
4歳が49分、5・6歳が44分と、年齢が上がるにつれて短くなっている。一方、民放総計は5・6歳が1時間14分と他の年齢よりも長めである。このNHK・民放別の年齢による視聴時間の長短の傾向は、これまでと同様である。

次に、曜日別のテレビ総計の視聴時間をみると(表3)、平日と日曜は1時間54分、土曜

はやや短く1時間46分であったが、今年の前年と比べて、日曜の視聴時間がやや短い。年齢別にみると、2歳は平日に2時間を超えているが、5・6歳は土曜と日曜に2時間を超えている。これは、2歳児が平日のEテレの帯番組をよく見ているのに対し、5・6歳児は土曜・日曜の民放人気アニメなどをよく見ていることによる。

曜日別NHK・民放別の視聴時間は図2のとおりである。平日はNHK総計と民放総計が1時間ほどと同程度であるが、土曜・日曜はNHKが減り民放が増え、日曜はNHK総計16分に対して、民放総計1時間38分と、両者の差が大きい。

図2 曜日別NHK・民放別の平均視聴時間



(2) よく見るチャンネルはEテレ

次に、調査を実施した1週間に、少しでも(15分以上)その局を見た幼児の割合(週間接触者率)をみている(表4)。Eテレは72.6%と最も高く、次いでフジテレビ、NTV、テレビ朝日である。年齢別にみると、Eテレは2歳で80%と高く、3歳と4歳でも他局に比べ高い水準でよく見られている。5・6歳になると、NTV・フジテレビ・テレビ朝日・テレビ東京の週間接触者率が6割台に増え、Eテレに並んでいる。

各局の週間接触者率を前年と比べると、総合は前年よりも増加したが、Eテレ・朝日・TBS・東京・フジは前年よりも減少している(表5)。各局の週間接触者率を2000年ごろ

表4 局別週間接触者率(年齢別)

	(%)				
	全体	2歳	3歳	4歳	5・6歳
NHK 全体	82.0	87	80	82	80
総合	29.5	26	31	21	37
E テレ	72.6	80	68	77	68
NTV	57.6	57	49	53	69
朝日	57.2	50	49	58	68
TBS	27.8	32	30	24	27
東京	46.5	34	34	47	64
フジ	63.5	61	62	60	69

表5 局別週間接触者率の推移

	(%)											
	2000	01	02	03	05	06	07	08	09	2010	11	12年
総合	35	32	38	30	28	29	24	30	24	25	24	30
E テレ	90	85	89	88	84	78	80	80	81	77	81	73
NTV	71	64	69	71	62	65	57	54	54	55	54	58
朝日	80	82	80	79	78	75	69	66	71	62	69	57
TBS	59	60	66	54	54	58	44	47	39	37	34	28
東京	86	83	82	78	75	68	61	63	66	59	55	47
フジ	72	81	79	79	75	74	74	77	76	67	69	64

(整数値で比較)

表6 局別時間帯別平均視聴率(週平均)

* 時間帯	総合			Eテレ			NTV			朝日			TBS			東京			フジ		
	10	11	12	10	11	12	10	11	12	10	11	12	10	11	12	10	11	12	10	11	12
午前	0.4	0.3	0.9	5.9	6.9	6.2	0.8	0.8	1.2	0.7	1.1	0.6	0.4	0.4	0.4	1.7	1.2	0.8	1.3	1.0	1.0
午後	0.2	0.2	0.2	4.1	4.2	3.4	0.5	0.7	0.6	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.7	0.6	0.4
夜間	0.6	0.5	0.7	1.6	1.5	1.4	2.2	2.6	2.2	1.8	1.9	2.0	1.0	1.0	0.5	2.4	1.6	1.5	3.3	3.7	2.9
1日	0.4	0.3	0.6	4.0	4.3	3.8	1.1	1.3	1.3	0.9	1.1	0.9	0.5	0.6	0.3	1.4	1.0	0.8	1.7	1.7	1.4

* 午前：前5:00～後0:00 午後：後0:00～後6:00 夜間：後6:00～前0:00 1日：前5:00～前0:00

の水準と比べると、いずれの局も減少しており、特にTBSは2000年59%から2012年は28%と半減、東京は86%から47%と減少幅が大きい。Eテレは2006年以降は8割前後の水準で推移していたが、今年は減少した。また、NTVは2008年以降は横ばいだったが、今年はやや上向いており(58%)、他局と動きが異なる。

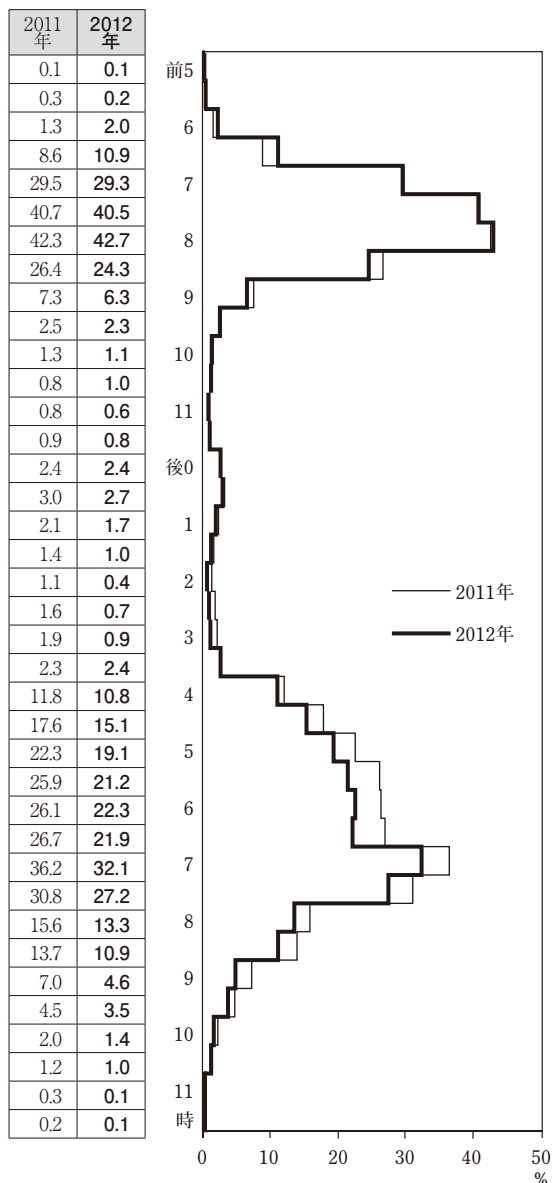
NHK・民放各局の平均視聴率(表6)をみると、Eテレは1日の平均で3.8%と最もよく見られ、特に午前(6.2%)・午後(3.4%)がよく見られている。一方、夜間ではフジがよく見られ、次いでNTV、朝日も2%台とよく見られている。各局・時間帯とも、前年・前々年と比べて統計的に有意な変化はないが、午前は総合が高めで、朝日と東京が低め、夜間はTBSと東京が低めである。

(3) 平日は夕方から夜間にかけて減少

幼児の平日1日のテレビの視聴状況を、30分ごとに時間を追って平均視聴率をグラフ化したものが図3である。幼児がテレビをよく見ている時間は、午前7時～9時までと、午後4時～9時までである。この時間帯は、朝夕ともに幼児・子ども向けの番組やアニメ番組などが放送されており、この視聴傾向はこれまでと変わらない。

前年と比べると、夕方から夜間にかけての

図3 テレビ総計30分ごとの平均視聴率(平日)



視聴率がやや低めに推移しており、午後6時台後半の視聴率が有意に減少した。局別にみると、午後4時～6時まではEテレが減少、午後6時以降は民放各局が少しずつ減少傾向にある。

表7 NHK・民放でよく見られている番組
(放送時間10分以上)

曜日	放送時刻	局	番組名	視聴率 (%)
日	後6:30	フジ	サザエさん	33.6
火	前8:01	Eテレ #	おかあさんといっしょ	32.7
日	後6:00	フジ	ちびまる子ちゃん	28.8
火	前7:45	Eテレ #	みいつけた!	28.5
金	後7:00	朝日	ドラえもん	28.1
土	前8:35	Eテレ	アニメ おさるのジョージ	27.8
土	前8:25	Eテレ	クインテット	26.8
木	前8:25	Eテレ #	いないいないばあ!	25.1
土	前8:00	Eテレ	おかあさんといっしょ土曜日	25.0
金	後7:30	朝日	クレヨンしんちゃん	24.5

#は帯番組で視聴率が最も高い曜日の数値(以下同様)

(4) よく見られている「サザエさん」

NHK・民放全体で幼児によく見られた番組は、フジテレビ「サザエさん」(33.6%)、Eテレ「おかあさんといっしょ」(32.7%)、フジテレビ「ちびまる子ちゃん」(28.8%)などであり、トップ3の番組は前年と変わらない(表7)。昨年は、テレビ朝日の日曜午前8時台「仮面ライダー」「プリキュア」が上位10番組の中に入っていたが、今年は全米ゴルフ中継で放送休止のため、代わりにEテレの土曜午前8時台の「クインテット」「おかあさんといっしょ土曜日」が入っている。各番組視聴率をみると、前年に比べ全体的にやや低めである。

(5) 2・3歳でよく見られているEテレ

年齢別によく見られた番組を比べたのが表8

表8 NHK・民放全体でよく見られている番組(年齢別)(放送時間10分以上)

2歳					3歳				
曜日	放送時刻	局	番組名	視聴率 (%)	曜日	放送時刻	局	番組名	視聴率 (%)
木	前8:01	Eテレ #	おかあさんといっしょ	37	火	前8:01	Eテレ #	おかあさんといっしょ	33
火	前8:25	Eテレ #	いないいないばあ!	33	火	前7:45	Eテレ #	みいつけた!	28
土	前8:25	Eテレ	クインテット	31	日	後6:30	フジ	サザエさん	28
土	前8:35	Eテレ	アニメ おさるのジョージ	31	日	後6:00	フジ	ちびまる子ちゃん	28
月金	前7:45	Eテレ #	みいつけた!	30	土	前8:00	Eテレ	おかあさんといっしょ土曜日	27
土	前8:00	Eテレ	おかあさんといっしょ土曜日	29	土	前8:25	Eテレ	クインテット	25
火	後5:30	Eテレ #	アニメ はなかっぱ	28	火	前7:30	Eテレ #	にほんごであそぼ	24
火	後5:40	Eテレ #	クッキンアイドル アイ!マイ!まいん!	28	土	前8:35	Eテレ	アニメ おさるのジョージ	24
火	後5:50	Eテレ #	フックブックロー	28	火	後5:50	Eテレ #	フックブックロー	24
金	後7:00	朝日	ドラえもん	28	水	後5:30	Eテレ #	アニメ はなかっぱ	24
日	後6:30	フジ	サザエさん	28					

4歳					5・6歳				
曜日	放送時刻	局	番組名	視聴率 (%)	曜日	放送時刻	局	番組名	視聴率 (%)
水	前8:01	Eテレ #	おかあさんといっしょ	33	日	後6:30	フジ	サザエさん	44
土	前8:35	Eテレ	アニメ おさるのジョージ	31	日	後6:00	フジ	ちびまる子ちゃん	37
日	後6:30	フジ	サザエさん	30	金	後7:00	朝日	ドラえもん	34
土	前8:25	Eテレ	クインテット	29	火	前8:01	Eテレ #	おかあさんといっしょ	31
火	前7:45	Eテレ #	みいつけた!	28	金	後7:30	朝日	クレヨンしんちゃん	30
金	後7:00	朝日	ドラえもん	28	火	前7:45	Eテレ #	みいつけた!	29
水	前8:25	Eテレ #	いないいないばあ!	27	金	前7:30	Eテレ #	にほんごであそぼ	27
土	前8:00	Eテレ	おかあさんといっしょ土曜日	26	土	前8:35	Eテレ	アニメ おさるのジョージ	26
日	後6:00	フジ	ちびまる子ちゃん	26	日	前7:30	朝日	特命戦隊ゴーバスターズ	26
金	後7:30	朝日	クレヨンしんちゃん	25	土	前8:25	Eテレ	クインテット	24
火	前7:30	Eテレ #	にほんごであそぼ	23					

■ Eテレの番組

である。2歳・3歳は朝と夕方のEテレの番組をよく見ている。年齢が上がるにつれて民放の番組が増え、5・6歳では10番組中5番組が民放の番組になる。この傾向はこれまでと同様である。すべての年齢でよく見られている番組は、Eテレでは「おかあさんといっしょ」「みいつけた!」「アニメ おさるのジョージ」「クインテット」、民放ではフジテレビの「サザエさん」である。

(6) アニメなど人気番組に視聴が集中

続いて、夕方から夜間にかけての民放の主な番組の視聴率をみでみる(表9)。フジテレビの「サザエさん」「ちびまる子ちゃん」や、テレビ朝日の「ドラえもん」「クレヨンしんちゃん」など、幼児によく見られているアニメ番組の視聴率は突出して高く、幼児は特定の番組に視聴が集中する傾向がある。また、アニメ以外の番組では、フジテレビの「VS嵐」やNTVの「天才!志村どうぶつ園」など、バラエティー番組も4歳以上で10%以上と、よく見られている。本調査と同時

期に実施した「全国個人視聴率調査」でもこれらのバラエティ番組の視聴率は高く、幼児も家族と一緒に視聴している様子が見られる³⁾。

2. NHK テレビの視聴状況

(1) 朝8時台の番組が好調

Eテレでよく見られた番組は表10のとおりである。「おかあさんといっしょ」「みいつけた!」「アニメ おさるのジョージ」など平日・土曜の朝の番組が並び、上位7番組を占める。このほか「アニメ はなかつぱ」など、平日午後5時台の番組が3本入っている。これら上位10番組のラインナップは前年と同じであるが、視聴率は全体的に前年より低めである。

総合テレビで最もよく見られた番組は、朝の「連続テレビ小説・梅ちゃん先生」であり、前年の「おひさま」(1.9%)と比べ高い。前後の「NHKニュースおはよう日本・7時台(L)」と「あさいち・8時台」もよく見られている(表11)。

表9 夕方・夜間の主な民放の番組 男女年齢別視聴率

曜日	放送時刻	局	番組名	全体	男	女	2歳	3歳	4歳	5・6歳
月～金	後6:30	東京	ピラメキーン	5.4	6	5	2	4	5	9
月	後7:00	NTV	宝探シアドベンチャー謎解きバトル TORE 2時間SP	6.4	7	6	6	5	6	9
	〃	フジ	ネプリーグ	5.4	4	6	5	4	7	5
	〃	東京	たまごっち!	11.4	7	15	11	7	9	17
火	後6:56	朝日	サッカー2014 FIFA予選 日本×オーストラリア	6.4	7	6	6	3	7	10
	後7:00	NTV	火曜サプライズ	4.6	4	6	4	6	3	5
水	後7:00	フジ	おじゃマップ	5.2	4	6	6	5	5	5
	〃	東京	イナズマイレブンGOクロノ・ストーン	9.0	11	7	5	3	10	16
	後7:27	〃	ダンボール戦機W	6.5	9	4	4	2	7	11
木	後7:00	フジ	V S嵐	9.9	8	12	10	5	10	14
	〃	東京	ポケットモンスターベストウイッシュ 最終回	13.7	15	12	7	7	14	23
金	後4:30	NTV	それいけ!アンパンマン	8.2	7	9	15	7	8	5
	後7:00	朝日	ドラえもん	28.1	29	27	28	21	28	34
	後7:30	〃	クレヨンしんちゃん	24.5	24	25	23	18	25	30
土	後6:00	NTV	名探偵コナン	7.5	8	7	5	7	6	11
	後7:00	〃	天才!志村どうぶつ園	9.7	8	11	8	6	10	14
	〃	フジ	リアルスコープZ	5.9	6	5	7	7	4	6
日	後6:00	フジ	ちびまる子ちゃん	28.8	27	31	22	28	26	37
	後6:30	〃	サザエさん	33.6	32	35	28	28	30	44
	後7:00	NTV	ザ!鉄腕!DASH!!SP	7.0	6	8	5	5	6	10
	〃	フジ	ほこ×たて	7.4	7	8	8	7	3	11

表 10 Eテレでよく見られている番組
(放送時間 10 分以上)

曜日 放送時刻	番組名	視聴率 (%)
火 前 8 : 01 #	おかあさんといっしょ	32.7
火 前 7 : 45 #	みいつけた!	28.5
土 前 8 : 35	アニメ おさるのジョージ	27.8
土 前 8 : 25	クインテット	26.8
木 前 8 : 25 #	いないいないばあっ!	25.1
土 前 8 : 00	おかあさんといっしょ土曜日	25.0
火 前 7 : 30 #	にほんごであそぼ	24.1
火 後 5 : 30 #	アニメ はなかつぱ	20.9
火 後 5 : 40 #	クッキンアイドル アイ!マイ!まいん!	20.9
火 後 5 : 50 #	フックブックロー	20.9

表 11 総合テレビでよく見られている番組
(放送時間 10 分以上)

曜日 放送時刻	番組名	視聴率 (%)
水金 前 8 : 00 #	連続テレビ小説・梅ちゃん先生	6.4
金 前 7 : 45 #	NHK ニュースおはよう日本・7 時台 (L)	4.0
金 前 8 : 15 #	あさいち・8 時台	3.6
日 後 7 : 30	ダーウィンが来た!	3.2
水木 前 7 : 00 #	NHK ニュースおはよう日本・7 時台	3.1

(2) E テレの幼児・子どもゾーン

E テレの平日朝の主な番組の視聴率は表 12 のとおりである。前年度から始まった午前 6 時台後半の幼児・子ども向け番組は、今年も引き続き見られている。午前 7 時～の「シャキーン!」以降の番組は視聴率が徐々に上がり、7:30～8:40 の番組は 20% を超える。8 時台後半になると登園のため家を出る幼児も多くなるため、視聴率は下がり、未就園児の多い 2 歳で視聴率が全体に比べ高くなる。前年と比べると、8:01～の「おかあさんといっしょ」の視聴率はやや低く、続く「いないいないばあっ!」(8:25～)以降の 8 時台後半の番組は減少している。この 8 時台後半の他局の視聴状況を見ると、総合テレビの視聴率が前年に比べやや増加しているものの、テレビ総計の視聴率はやや減少しており、テレビが見られなくなっていた。

土曜の朝の番組視聴率をみると(表 13)、平日同様に、「おかあさんといっしょ土曜日」など午前 8 時台の番組が、幅広い年齢によく見

表 12 平日・朝の主な E テレの番組・男女年齢別視聴率

() は前年の同番組の視聴率、〈 〉 は前年の同時時間帯の番組視聴率 (以下同様) (%)

放送時刻	番組名	全体	男	女	2 歳	3 歳	4 歳	5・6 歳
前 6 : 35	フックブックロー	3.2 (2.5)	2	4	5	2	3	3
前 6 : 45	クッキンアイドル アイ!マイ!まいん!	6.1 (6.1)	6	7	7	7	5	5
前 6 : 55	E テレ 0 6 5 5	6.1 (6.1)	6	7	7	7	5	5
前 7 : 00	シャキーン!	14.9 (16.2)	15	15	16	16	12	16
前 7 : 15	アニメ はなかつぱ	18.1 (21.0)	18	19	17	20	15	20
前 7 : 25	ピタゴラスイッチ ミニ	18.1 (21.0)	18	19	17	20	15	20
前 7 : 30	にほんごであそぼ	21.9 (23.6)	21	23	23	22	19	24
前 7 : 40	アニメ うっかりベネロベ	21.9 (23.6)*	21	23	23	22	19	24
前 7 : 45	みいつけた!	26.4 (28.7)	25	28	28	26	25	26
前 8 : 01	おかあさんといっしょ	30.9 (36.1)	28	33	34	31	31	29
前 8 : 25	いないいないばあっ!	24.4 (30.5)	23	26	31	22	24	23
前 8 : 40	プチプチ・アニメ	21.3 (27.8)	20	22	29	18	21	20
前 8 : 45	えいごであそぼ	13.7 (18.4)	12	15	20	12	12	13
前 8 : 55	てれび絵本	13.7 (18.4)	12	15	20	12	12	13

*前年は「アニメ リタとナントカ」

■ は全体より統計的に高い、□ は低い (以下同様)

表 13 土曜・朝の主な E テレの番組・男女年齢別視聴率

(%)

放送時刻	番組名	全体	男	女	2歳	3歳	4歳	5・6歳
前7:00	デザインあ	4.9 (6.7)	5	5	3	5	4	7
前7:15	モリゾー・キッコロ 森へいこうよ!	5.7 (8.8)	7	5	3	5	5	8
前7:30	つくってあそぼ	10.4 (11.8)	12	9	6	10	12	12
前7:45	ピタゴラスイッチ	12.1 <11.9> *	15	10	10	11	16	12
前8:00	おかあさんといっしょ土曜日	25.0 (23.8)	24	26	29	27	26	20
前8:25	クインテット	26.8 (26.4)	26	28	31	25	29	24
前8:35	アニメ おさるのジョージ	27.8 (27.8)	27	29	31	24	31	26
前9:00	アニメ ひつじのショーン	15.0 (7.9)	17	14	18	11	18	14

* 前年は「しぜんとあそぼ」

表 14 日曜・朝の主な E テレの番組・男女年齢別視聴率

(%)

放送時刻	番組名	全体	男	女	2歳	3歳	4歳	5・6歳
前7:00	きかんしゃトーマス	8.0 <4.8> *	10	6	10	11	6	6
前7:25	みいつけた!さん	6.6 (6.0)	6	7	9	8	6	5

* 前年は「ペンギンズ2」前7:00~7:25

られている。前年と比べると、「モリゾー・キッコロ 森へいこうよ!」は視聴率が減少し、「アニメ ひつじのショーン」は増加している。

2010年に新設された日曜午前7時台の幼児・子どもゾーンも、引き続き好調である。「きかんしゃトーマス」と「みいつけた!さん」は、ともに前年より視聴率が増加している(表14)。な

お「全国個人視聴率調査」では、「きかんしゃトーマス」の男7~12歳の視聴率は0%と、前年の「ペンギンズ2」(6%)よりも減少した。「ペンギンズ2」は小学生に、「きかんしゃトーマス」は幼児によく見られており、同じ時間帯でも番組の内容によって、視聴の年齢層が微妙に変化し、視聴者が替わる動きも早い。

表 15 平日・夕方の主な E テレの番組・男女年齢別視聴率

(%)

放送時刻	番組名	全体	男	女	2歳	3歳	4歳	5・6歳
後4:00	みんなのうた	7.4 <8.3> *	7	8	11	7	9	5
後4:05	えいごであそぼ	7.4 (8.3)	7	8	11	7	9	5
後4:15	つくってワクワク	8.6 (10.6)	7	10	14	8	10	5
後4:20	いないいないばあっ!	9.8 (11.7)	9	11	15	10	11	5
後4:36	おかあさんといっしょ	11.0 (13.2)	10	13	16	11	13	6
後5:00	みいつけた!	14.9 (18.9)	14	16	18	15	18	10
後5:15	にほんごであそぼ	15.2 (18.9)	14	17	17	16	18	11
後5:25	ピタゴラスイッチ ミニ	15.2 (18.9)	14	17	17	16	18	11
後5:30	アニメ はなかつば	16.7 (21.9)	15	19	18	20	18	12
後5:40	クッキンアイドル アイ!マイ!まいん!	16.6 (21.5)	15	18	19	20	18	12
後5:50	フックブックロー	16.6 (21.1)	16	17	19	20	17	12
後6:00	アニメ おじゃる丸	13.8 (15.5)	15	13	14	15	16	11
後6:10	アニメ 忍たま乱太郎	12.7 (14.2)	14	12	13	14	15	10
後6:20	(月~木) 大!天才てれびくん	7.7 (9.9)	7	8	9	7	9	7

* 前年は「ブチブチ・アニメ」

Eテレの平日夕方の主な番組視聴率をみると、午後4時から徐々に視聴率が増加し、5時台後半の番組がよく見られている(表15)。年齢別の視聴率をみると、5・6歳では全体よりもやや低い番組が多い。また、前年と比べると全体的に番組視聴率は低く、5時台後半の「アニメ はなかつぱ」「クッキンアイドル アイ!マイ!まいん!」「フックブックロー」の視聴率は前年20%以上であったが、今年は16%台と減少している。

3. テレビ視聴時間減少の背景

(1) 母親の視聴時間との関連

これまでの幼児視聴率調査などから、幼児の視聴時間は、母親の視聴時間やテレビの見せ方が影響しているという知見が得られている。本調査では、母親のふだん1日あたりのテレビ視聴時間を尋ねているが、今回の結果でも、母親の視聴時間が3時間以上と長い場合、幼児の視聴時間も3時間1分と長く、母親の視聴時間が2時間未満と短い場合、幼児の視聴時間も1時間18分と短かった(表16)。

母親の視聴時間の推移をみると(図4)、視聴時間が3時間以上の「長時間」層は、2000年代前半まで40%前後であったが、2007年に

表16 母親の視聴時間別にみた幼児の視聴時間
(テレビ総計、週平均)

(時間：分)

	全体	短時間 (2時間未満)	中間 (2～3時間)	長時間 (3時間以上)
10年	2：05	1：26	2：15	3：07
11年	2：07	1：23	2：12	3：12
12年	1：53	1：18	1：57	3：01
12年のサンプル数	303人	135人	152人	

29%まで減少した。一方、視聴時間が2時間未満の「短時間」層は、2006年・2007年に急増、その後は40%台で推移したが、今年は51%と増加した。今年、幼児のテレビ視聴時間は前年よりも減少したが、その背景のひとつとして、この母親の視聴時間の短時間化が考えられる。

ちなみに、母親の視聴時間の短時間化は、職業を持つ母親の増加と関わりが深い。「短時間」層の割合を職業の有無別に比べてみると、フルタイムの勤務をしている母親は70%、パート・アルバイトの母親は51%である一方、専業主婦は44%と、職業を持つ母親の方が「短時間」層の割合が多い。母親の有職者率をみると、2008年・2009年に増え高い水準にあり、視聴時間の短時間化と連動している(図5)。

(2) 幼児の就園状況との関連

幼児のテレビ視聴時間は母親の視聴時間と関連しているが、就園状況もまた幼児のテレビ視聴に影響を与えている。なお、本調査では視聴の定義として、家庭内でのテレビ視聴に限定しており、幼稚園や保育園での視聴は含まれていない。

幼稚園・保育園の就園率は、2006年以降母親の有職者率の増加に沿う形で2008年に8割を超え、以後8割程度の水準で推移している(図5)。年齢別にみると、4歳以上の就園率は2006年ごろから変わらない(4歳は95%ほど、5・6歳はほぼ100%)。2歳・3歳の就園率を2006年と2012年で比べると、2歳は20%から30%、3歳は68%から83%と増加しており、2・3歳児の増加が全体の就園率を引き上げている。就園別の年齢構成をみると(図6)、幼稚園児は2歳が少なく、5・6歳が多い。保育

図4 母親の視聴時間の推移

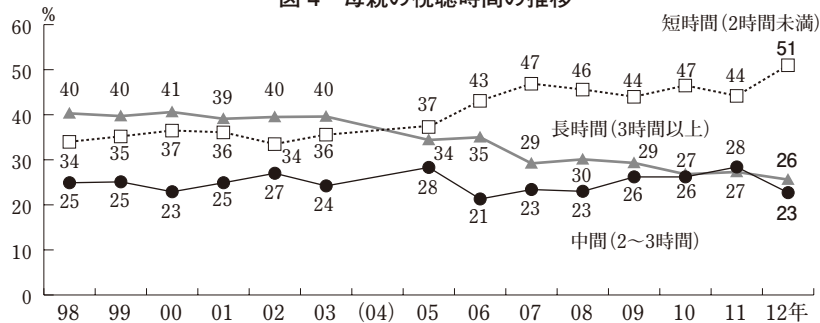


図5 母親の有職者率と幼児の就園率の推移

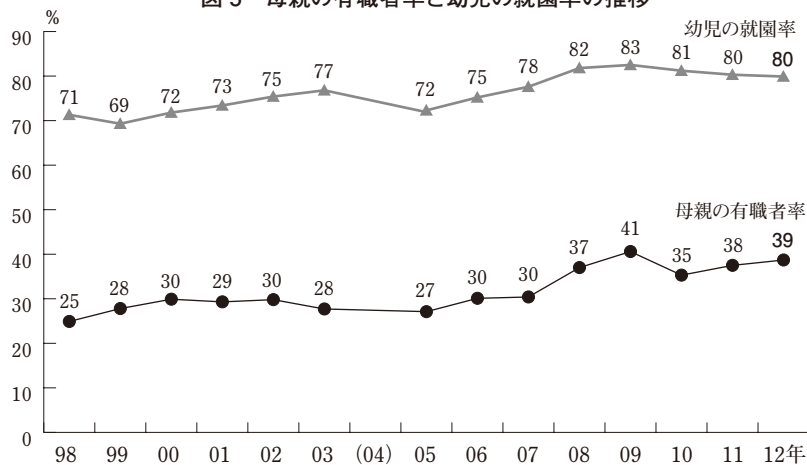
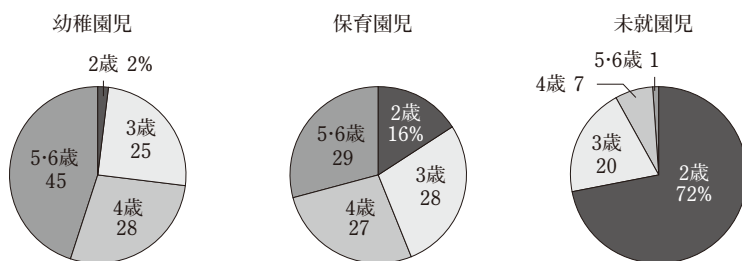


図6 幼稚園・保育園・未就園児の年齢別構成



園児は2歳がやや少なめであるが、各年齢はほぼ均等である。未就園児は3歳以下が9割を占めている。

就園別の年齢構成の違いがあることをふまえ、テレビ視聴状況をみてみると、就園別の平日1日のテレビ視聴時間は、保育園児が1時間37分であるのに対し、幼稚園児は2時間、未

就園児は2時間5分とやや長い(表17)。30分ごとの平均視聴率をみると(図7)、平日朝は保育園児がテレビを早い時間から見始め、保育園児の朝の視聴のピークは午前7時台後半である。幼稚園児の朝の視聴のピークは8時台前半で、8時~9時台前半の平均視聴率は保育園児よりも高い。未就園児の朝の視聴のピークも8時台前半だが、9時以降も視聴しており、昼12時台には視聴の小さな山がある。夕方になると、未就園児と幼稚園児が午後4時ごろからテレビを徐々に見始めるが、保育園児の夕方のテレビ視聴は少ない。幼稚園児と保育園児の夜間の視聴のピークはともに7時台前半であるが、夜遅い時間になると保育園児の方がテレビをよく見ている。

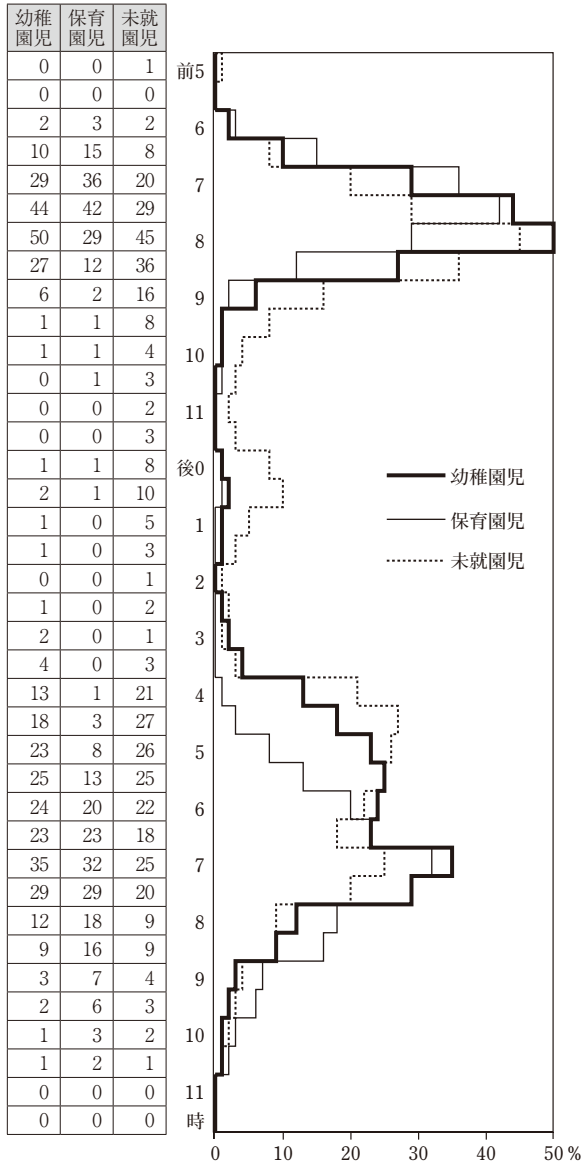
ベネッセ次世代育成研究所が2010年に行った調査⁴⁾では、幼稚園児が朝、家を出る平均時刻は午前8時38分、家に帰る平均時刻は午後2時56分であるが、保育園児は午前8時13分、午後5時44分と、自宅外にいる時間が3時間以上長い。また、1995年から2010年の15年間で、幼稚園児・保育園児ともに、園に向けて家を出る時刻は早く

表 17 就園別・平日の平均視聴時間 (テレビ総計)

(時間：分)

	全体	幼稚園児	保育園児	未就園児
11年	2:07	2:02	1:51	2:40
12年	1:54	2:00	1:37	2:05

図 7 テレビ総計の30分ごとの平均視聴率 (就園別 平日)



なり、家に帰る時刻は遅くなっていると報告している。幼児、特に2・3歳児の就園率の増加、および就園別の生活時間の違いと変化が、テレビ視聴に深く関わり、テレビ視聴時間減少の背景のひとつとなっていると考えられる。

4. ビデオ利用状況

(1) ビデオ再生時間は前年よりやや増加

ここまで、テレビ視聴状況を紹介してきたが、最後にビデオの利用状況をみていく。

調査では、テレビ視聴状況とともに、ビデオの再生視聴も同様に記入してもらっている。このビデオの再生視聴は、録画番組と市販のビデオやDVDなどを合わせている。調査をした1週間に少しでもビデオを見た幼児は、全体の81.6%で、前年(81.2%)と変わらない。

1日あたりのビデオ再生時間(所有していない幼児も含めた)は46分で、前年(40分)よりもやや増えた。年齢別にみると(表18)、2歳58分、3歳48分、4歳44分、5・6歳36分と、2歳が最も長く、年齢が上がるにつれて短くなる。

曜日別にビデオ再生時間をみると、最も長いのが土曜1時間4分で、日曜は51分、平日は41分である。曜日別のビデオ再生時間とテレビ視聴時間を並べたのが図8である。土曜はテレビ視聴時間が短いものの、ビデオ再生時間が長く、トータルの視聴時間も長い。

ビデオ再生時間とテレビ視聴時間の推移をみると(図9)、ビデオ再生は2002年以降40分弱で推移していたが、今年は46分とやや増加、これに対してテレビ視聴時間は前年に比べ減少した。テレビの減少分の一部がビデオ視聴に充てられた形となっている。

表 18 ビデオ再生時間（1日，週平均）

(分)

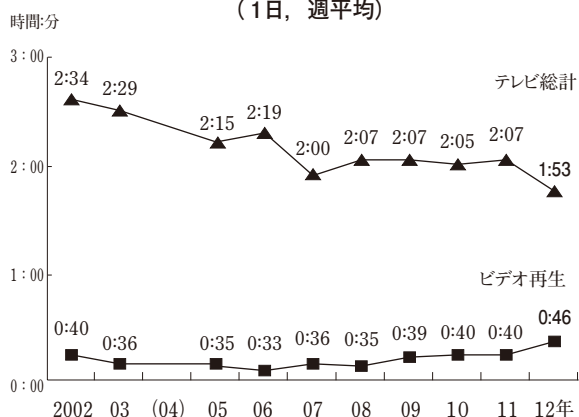
	全体	男	女	2歳	3歳	4歳	5・6歳	幼稚園児	保育園児	未就園児
10年	40	44	34	50	43	34	35	35*		58
11年	40	41	40	49	41	34	39	34	41	54
12年	46	49	42	58	48	44	36	40	46	60

*2010年は「保育園・幼稚園に行っている」と尋ねている

図 8 曜日別ビデオ再生時間とテレビ視聴時間
(1日，週平均)



図 9 ビデオ再生時間とテレビ視聴時間の推移
(1日，週平均)



(2) 多くの時間帯でビデオ利用が増える

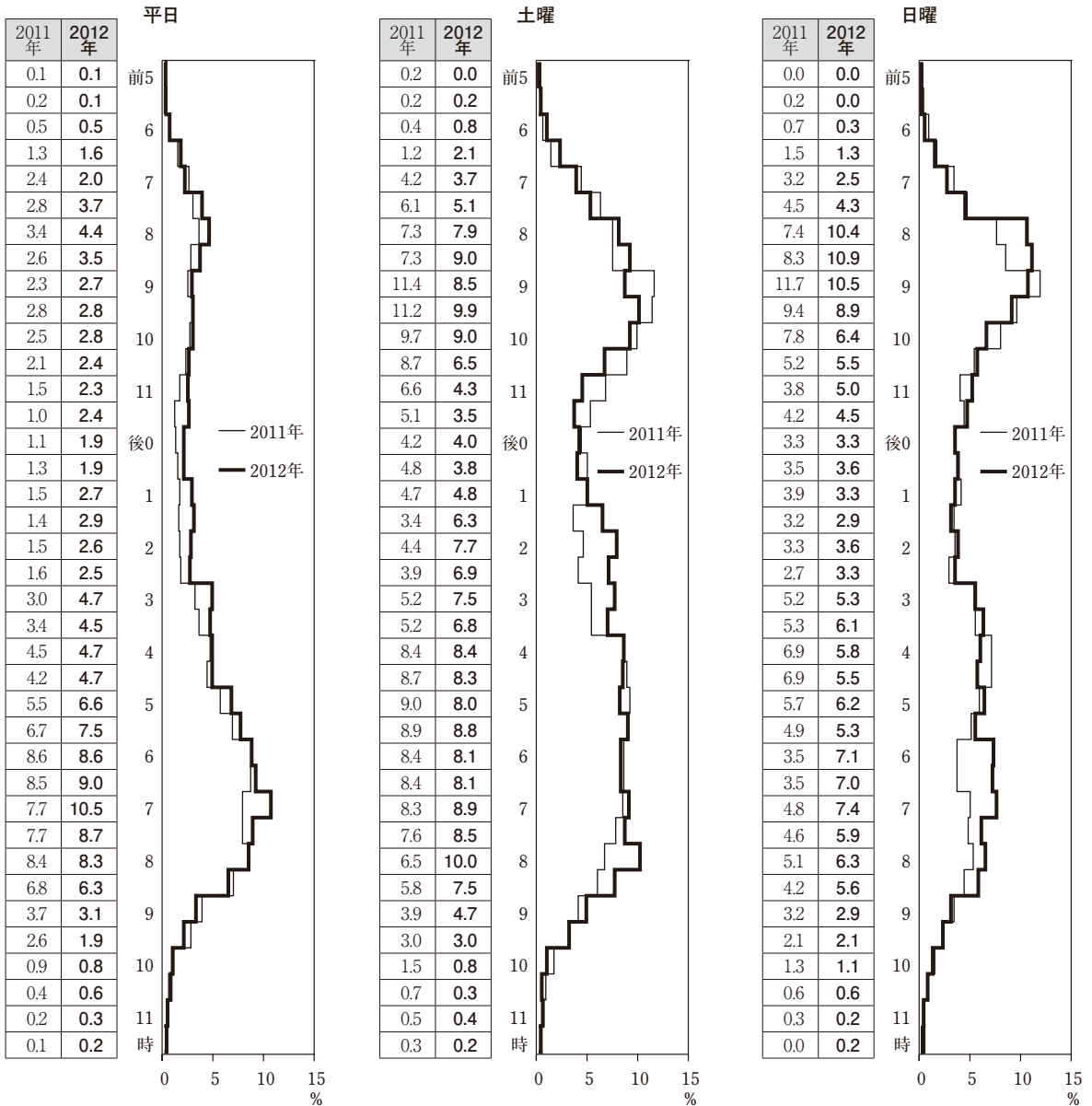
ビデオ再生の30分ごとの平均利用率をみると(図10)，平日は午後6時～8時台によく利用され，土曜・日曜は幼稚園などが休みのため，午前8時～10時台，また土曜は午後2時～8時台の幅広い時間帯でよく利用されている。前年に比べビデオ利用率が増加した時間帯は，土曜午後1:30～3:00と午後8時台前半，日曜午後6時台である。テレビ視聴率の変化と比べると，土曜午後8時台前半は民放の番組視聴率が減少し，ビデオ利用率は増加した。日曜午後6時台はフジテレビの高視聴率番組「ちびまる子ちゃん」「サザエさん」が放送されているにもかかわらず，視聴率は減少し，ビデオ利用率が増加した。また，日曜午前8時台は幼児によく見られている「仮面ライダー」「プリキュア」の休止が影響し，テレビ視聴率が減少，ビデオ利用率はやや増加し

た。これまでも報告しているが，幼児はアニメや幼児・子ども向け番組に視聴が集中する傾向が強く，このため，好みの番組の放送がないときは，ビデオをよく利用している。今回の結果ではさらに，日曜午後6時台といった人気番組の放送時間帯でも，テレビ視聴からビデオ利用への動きがみられる。

(3) テレビ視聴短時間層がビデオをより利用

ここでは，幼児のテレビ視聴時間の長短とビデオ利用状況との関わりをみてみる。テレビの視聴時間(週平均，1日)が1時間未満の幼児を「短時間」層とし，3時間以上の幼児を「長時間」層とする。この「短時間」層と「長時間」層のサンプル構成比は表19である。「短時間」層は保育園児がやや多いが，性別・年齢・兄弟の有無には差はみられない。母親の属性では，「短時間」層はフルタイム勤め，視聴時間は短時間，

図 10 ビデオ再生の 30 分ごとの平均利用率 (平日・土曜・日曜)



テレビの見せ方は見る時間と番組の両方を制限する母親が多い。一方「長時間」層は、パート・アルバイト勤めがやや多く、視聴時間は長時間、テレビは制限せずに自由に見せている母親が多い。なお、母親の職業で専業主婦の占める割合は、「短時間」層と「長時間」層で有意な差はみられなかった。

母親の職業などに違いがあるが、幼児の属性には大きな差がないことをふまえ、「短時間」層と「長時間」層のビデオ利用状況をみてみる。ビデオ再生の週間接触者率は、「短時間」層84%、「長時間」層69%と、「短時間」層の方が高い。ビデオの再生時間(週平均、1日)は「短時間」層49分、「長時間」層32分と、時間

表 19 幼児のテレビ視聴時間「短時間」「長時間」のサンプル構成比

「短時間」はテレビ視聴時間が1時間未満の幼児（168人）、「長時間」は3時間以上の幼児（114人）

(%)

	男	女	2歳	3歳	4歳	5・6歳	保育園児	幼稚園児	未就園児	兄弟あり	兄弟なし
短時間	49	51	20	27	25	27	36	45	20	51	49
長時間	47	53	25	25	19	31	26	53	21	54	46

	母親の職業			母親のテレビ視聴時間			母親のテレビの見せ方*		
	専業主婦	パート アルバイト	フルタイム	短時間 (2時間未満)	中間 (2～3時間)	長時間 (3時間以上)	両方制限	どちらか 制限	制限なし
短時間	56	13	25	74	15	10	23	45	24
長時間	61	20	12	17	18	66	11	39	48

*母親のテレビの見せ方

「両方制限」見る時間と番組の両方を決めている

「どちらか制限」見る時間と番組のどちらかを決めている

「制限なし」自由に見せている

量でも「短時間」層の方がやや多い。

また、ビデオの30分ごとの平均利用率を「短時間」層と「長時間」層と比較すると(図11)、ビデオの利用率は朝と夕方から夜間にかけて、「短時間」層の方が高めに推移している。午前7時台後半と午後7:00～8:30のテレビ視聴の多い時間帯で、「短時間」層の方がビデオ利用率が有意に高い。

テレビ視聴時間が長い幼児もビデオを利用しているが、テレビ視聴時間が短い幼児の方がビデオをより多く利用している。特に「短時間」層では、ビデオ再生のピークの時間帯がテレビ視聴のピークの時間帯と重なっており、幼児に見られている番組がテレビで放送されているにもかかわらず、ビデオを利用している。幼児のテレビとビデオの使い分けに対する意識の変化がうかがえる。

(4) 進む HDD の普及

調査では、休日をのぞくふだんの日に「録画したテレビ番組」と「市販のビデオやDVD」をそれぞれののくらい再生して見ているかを尋ねた。その結果、録画番組を見る人は72%、市

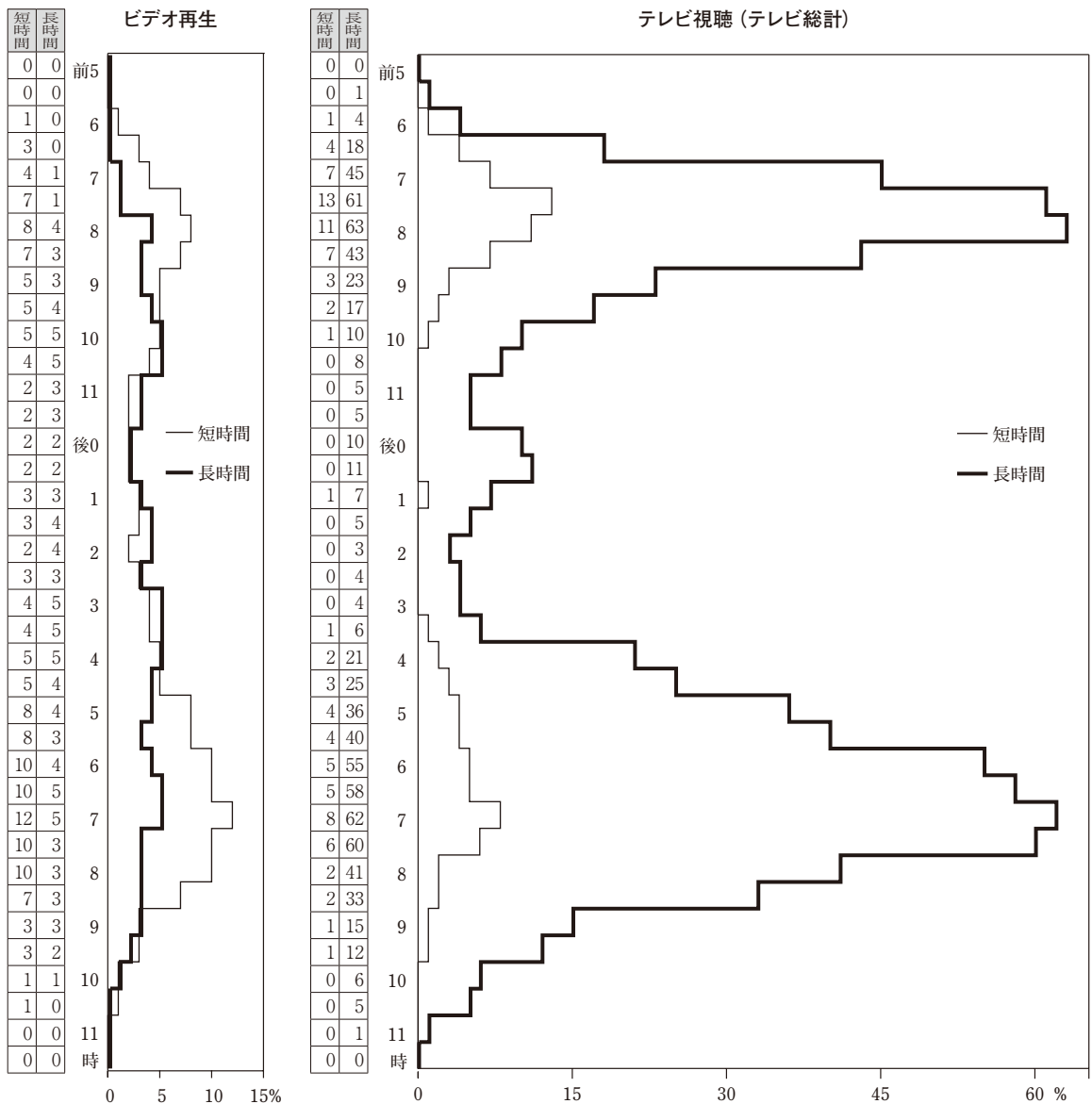
販のビデオやDVDを見る人は52%と、録画番組を見る人の方が多い。また、再生時間量も、録画番組を見る人の方が「30分以上」という人が多い(図12)。

録画番組をよく見ている背景には、デジタル録画機のHDDの普及がある。HDDを最もよく利用する人は、今年55%と半数を超えた(図13)。DVDやビデオデッキの利用が減少するなか、録画・再生操作が簡単なHDDの普及が進んでいる。番組保存容量の増加や自動録画機能など、性能がさらに向上していくと、今後も幼児の録画番組の視聴が増える可能性が大きいと思われる。

まとめ

今年、幼児のテレビ視聴時間は初めて2時間を切り、前年よりも減少した。視聴の減少は夕方から夜間にかけての時間帯で、特に民放の下降が大きい。減少の背景として本調査からは、ビデオ再生時間がやや増加したこと、短時間視聴の母親が増加したことが考えられた。「幼児番組の放送時間でも子どもの好きな

図 11 ビデオ再生・テレビ視聴の 30 分ごとの平均利用率・視聴率 (幼児のテレビ視聴時間別, 週平均)



番組がなければビデオを見せよう」, また, 「子ども優先ではなく親子が一緒に楽しめるバラエティー番組などを見よう」といった母親の意識がこれまでよりも強くなってきているのではないかと考えられる結果もあった。

さらに, 母親と幼児のテレビ以外のメディア

利用についてもここ数年で変化している。2012年1月に実施した世論調査「日本人とメディア」⁵⁾では, 30代女性の76%が自宅でパソコンによるインターネットを利用している。また, 幼児のパソコン利用については, テレビ視聴時間に比べると短いものの, テレビゲームや携帯ゲー

図 12 録画したテレビ番組と市販のビデオや DVD の再生時間

(録画再生機器を所有している人 544人)

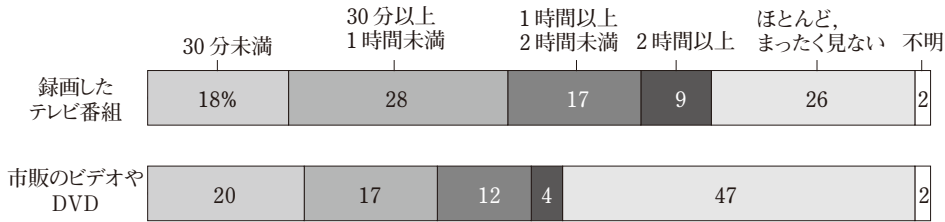
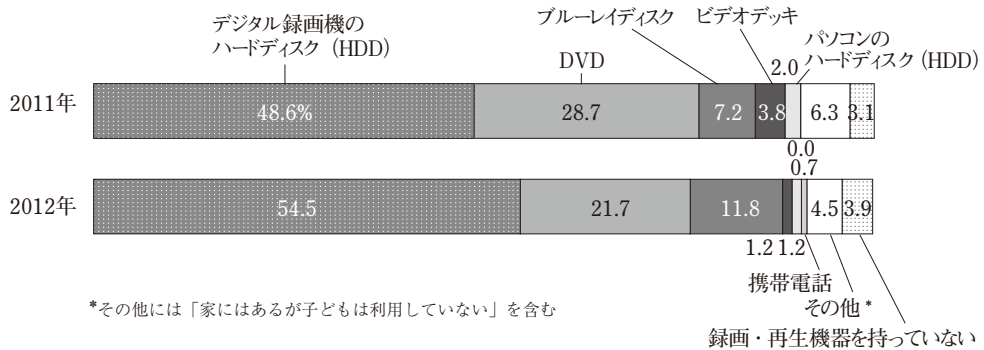


図 13 ビデオを見るときに最もよく利用する機器



ムと同程度であるといった調査結果⁶⁾もある。母親と一緒に、幼児がインターネットなどのメディアに接する機会が増えていることも、テレビ視聴を減少させる要因と推測できよう。

2007年以降、幼児のテレビ視聴は安定しており、今回の減少が来年以降も続くのかは分からない。しかし、HDDの増加などの状況からビデオ再生が増える可能性は高いだろう。一方で、好みの番組が放送されれば、その番組の視聴率が増加するなど、視聴に向かう動きが早い一面もある。今後も幼児のテレビ視聴を維持していくには、こうした幼児のテレビ視聴に関わる状況の変化に、迅速に対応していくことが求められる。

(せきね ちえ)

注：

- 1) 西久美子 / 執行文子 / 安楽裕里子 / 舟越雅「テレビ・ラジオ視聴の現況～2012年6月全国個人視聴率調査から～」『放送研究と調査』2012年9月号
- 2) 「未就園児」は保育園・幼稚園には行っていない幼児で、2011年までの報告では「それ以外」と表記していた。
- 3) 文研の“子どもに良い放送”プロジェクトの調査でも、8歳児のテレビ視聴について、バラエティー番組の視聴が定着し、家族と一緒によく見ていると報告している。
中井俊朗 / 堀川伸一「親子の接点としてのバラエティー番組～小学2・3年生のテレビ視聴～」『放送研究と調査』2012年8月号
- 4) 後藤憲子他『第4回幼児の生活アンケート 速報版』ベネッセ次世代育成研究所 2010年
- 5) 吉次由美 / 小林憲一「デジタル時代の『新しいテレビ』はどこに向かうのか～世論調査『日本人とメディア』と業界アンケートから～」『放送研究と調査』2012年8月号
- 6) 上記4)と同じ。

訂正：「幼児はテレビをどう見ているか～平成23年6月『幼児視聴率調査』から」『放送研究と調査』2011年10月号 p.49～50において母親が「短時間視聴」の幼児の視聴時間を「2時間7分」と記載したが、正しくは今号表16のとおり「1時間23分」である。